

令和3年度活動報告書

		活動内容	
		計画	実績
運営事業	総会の開催		<ul style="list-style-type: none"> ・6月30日(オンライン議決権行使及びZoomウェビナーライブ配信(日比谷国際ビルコンファレンススクエア))、130名が視聴 ・臨時総会10月4日(オンライン議決権行使及びZoomウェビナーライブ配信(本省会議室))、54名が視聴
	理事会の開催		<ul style="list-style-type: none"> ・6月30日(Web会議(日比谷国際ビルコンファレンススクエア))、 ・令和4年1月26日(Web会議(日比谷国際ビルコンファレンススクエア)) ・令和4年3月(メール開催)(予定)
	運営会議の開催		<ul style="list-style-type: none"> ・5月21日(Web会議(東京虎ノ門グローバルスクエアコンファレンス)) ・8月5日(Web会議(日比谷国際ビルコンファレンススクエア)) ・9月15日(Web会議(日比谷国際ビルコンファレンススクエア)) ・11月11日(Web会議(東京虎ノ門グローバルスクエアコンファレンス))
	新事業創出会議の開催		<ul style="list-style-type: none"> ・5月21日(Web会議(東京虎ノ門グローバルスクエアコンファレンス)) ・9月15日(Web会議(日比谷国際ビルコンファレンススクエア))
普及啓発事業	Webサイトの運営		<ul style="list-style-type: none"> ・Webサイトについて、会員名簿や研究開発プラットフォーム一覧の掲載等を行った。また、サーバ証明書の更新を行った。ホームページの資料室に総会等開催報告を掲載するなど情報の充実を図った。会員登録機能ならびに登録商標申請機能を新たに構築し直し、従来2つのサーバーで運用していたものを一本化した。
	メールマガジン発行		<ul style="list-style-type: none"> ・43回発行(1月17日現在)し、イベント情報、農林水産関連施策の情報等を会員に周知
	協議会活動のプレスリリース及び周知活動		<ul style="list-style-type: none"> (記事制作) ・マイナビ農業において2月に2本、「知」の集積と活用の場における農業生産者と研究者の関わり合いについてのオンライン記事を掲載。またその記事を基に冊子を制作。 ・東洋経済オンラインにおいて2月に2本、「知」の集積と活用の場と研究開発プラットフォームの活動についてのオンライン記事を掲載。またそれらの記事の要約版を本誌に掲載。 ・昨年度、12月及び2月にJAグループの月刊誌「地上」に「知」の集積と活用の場のスマート農業に係る取組を紹介する記事を掲載。またその記事を基に冊子を制作 (プレスリリース) ・経済産業省との共催の食関連分野オープンイノベーションチャレンジピッチ(11月5日)の開催をプレスリリース ・ポスターセッション(11月1日～22日)の開催をプレスリリース (成果報告会) ・令和4年2月4日にプラットフォームの研究成果について報道関係者向けの成果報告会を開催。4つのプラットフォームの事例を紹介し、258名が視聴。 ※冊子等は新型コロナ禍が終息した後、イベント等で配付を行う
	展示会等への出展		<ul style="list-style-type: none"> ・JFフードサービスバイヤーズ商談会2021(東京11月16日) ・アグリビジネス創出フェア(東京11月24-26日)(特設webサイト公開9月24日～翌1月26日))
	研究成果の海外展開		<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム大使館との共催セミナー開催(5月11日) ・ポーランド大使館との共催セミナー開催(6月21日) ・ベルギー大使館との共催セミナー開催(6月24日) ・コロンビア政府主催国際農業イノベーションフェアでの発表(9月22～25日) ・デンマーク大使館との共催セミナー開催(11月29日) ・ニュージーランド大使館との共催セミナー開催(12月3日)

活動指標及び活動実績

産学官連携協議会

令和3年度活動報告書

		計画	実績
活動指標及び活動実績	産学連携協議会(続き)	連携推進事業	<p>第1回新事業創出会議(5月21日、Zoomウェビナーによるライブ配信、視聴者151名、(東京))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供: 経済産業省関東経済産業局が推進するオープンイノベーションマッチングスクエア、みどりの食料システム戦略を紹介。 ・ウェブセミナー: 令和2年度プロデューサー活動支援事業(林業)の活動、スマート農業新サービス創出プラットフォームの活動、フィンランドのアグリテックの取組、みずほ銀行の次世代金融推進プロジェクトを紹介。
			<p>総会(6月30日、Zoomウェビナーによるライブ配信、視聴者130名、(東京))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トークセッション: 昨年度の記者向け成果報告会で登壇した4つの研究開発プラットフォームと、株式会社リバナエス執行役員の塚田氏に登壇いただき、製品化をテーマとしたトークと質疑を実施。
			<p>第2回新事業創出会議(9月17日、Zoomウェビナーによるライブ配信、視聴者112名、(東京))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供: 研究開発に係る令和4年度予算概算要求の概要について紹介。 ・トークセッション: プラットフォームの活動が好循環となっている大中小各1つずつのプラットフォームに登壇いただき、プラットフォーム運営をテーマとしたトークと質疑を実施。
			<p>食関連分野オープンイノベーションチャレンジピッチ(11月5日、Youtubeライブ配信、(神奈川))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林水産省、経済産業省、中小企業基盤整備機構の共催 ・「知」の集積と活用からの紹介で、日鉄エンジニアリングが大規模沖合養殖システム、大平きこの研究所が舞茸生産に係る技術ニーズを発信。その他経済産業省からの紹介で3企業がニーズを発信。結果として、日鉄エンジニアリングには8件、大平きこの研究所には40件のシーズ提案。
			<p>ステップアップセミナー(令和4年1月26日、Zoomウェビナーによるライブ配信、視聴者95名、(東京))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長平理事から近年の新製品・新サービス開発の動向について基調講演。中小企業基盤整備機構や日本貿易振興機構による事業化・海外展開の支援メニューの紹介、経済産業省関東経済産業局によるオープンイノベーションに向けたニーズ・シーズマッチングの取組の紹介を実施。
		<p>大使館向けイベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員となった在京大使館を対象としたプラットフォーム等の技術シーズを紹介するセミナー(令和4年3月3日、日比谷国際ビル コンファレンススクエア)(予定) 	
		ポスターセッションの開催	<ul style="list-style-type: none"> ・11月1日会場でのポスターセッションを開催。57点のポスターを前に108名の参加者が議論・交流。オープニングセレモニーでは、研究開発プラットフォームによる製品化エコシステムについて、折戸理事から基調講演。また、農林水産省職員による講評会を開催。 ・11月2日Zoomウェブ会議による成果発表会を開催。10件の事例発表を行い、218名が参加。プレイクアートルーム(参加者を少人数グループに分ける機能)を用いて発表者と参加者の交流の場を提供。 ・11月1日～21日特設Webサイトにポスターデータや動画等の説明資料を掲載。総PV数17534、総ユーザー数2238。
		研究開発プラットフォームの届出受付	令和3年度は5件の届出、10件の解散届出(うち統合に係るもの1件)を受理(令和3年12月31日現在) (プラットフォーム数175件(令和3年12月31日現在))
		後援名義の付与	・スクラム十勝シンポジウム2021(北海道立総合研究機構)及び第3回「低価格農業を実現するための革新的生産プロセス」シンポジウム(東京大学)の2件後援名義付与(令和3年1月17日現在)
		会員からの相談受付等	会員等から研究開発プラットフォームとコンタクトをとりたいなど全10件の問い合わせに対応(令和3年12月31日現在)
研究開発促進事業	研究資金の紹介	農林水産省及び関係省庁の研究開発予算をメールマガジン等により会員へ周知	

令和3年度活動報告書

		議題等	
活動指標及び活動実績	産学連携協議会 (続き)	運営会議 (5月21日)	①令和3年度の活動方針について、②今後の海外展開、③研究開発プラットフォームから生み出された製品化事例、④研究開発プラットフォームヒアリング、⑤イノベーション創出強化研究推進事業の審査結果
		理事会 (6月30日)	①海外会員の入会とその対応について、②製品化事例等に関するヒアリングの実施状況(経過報告)、③令和2年度活動報告及び令和3年度活動計画について、(下記総会における理事の選任後)④会長、副会長の互選
		総会 (6月30日)	①令和2年度活動報告及び令和3年度活動計画について、②総会の議事録作成に関する規約の変更及び理事の選任について、③情報提供(オープンイノベーションマッチングスクエア等(経済産業省関東経済産業局)、みどりの食料システム戦略)
		運営会議 (8月5日)	①令和3年度上半期 研究開発プラットフォームヒアリング結果報告、②海外会員の募集開始に向けた準備状況
		運営会議 (9月15日)	①令和3年度前半の活動報告と後半の活動予定について、②令和3年度「知」の集積と活用の中 評価委員会の実施について、
		臨時総会 (10月4日)	①海外会員募集開始に係る規約の改正について、②令和3年度前半の活動報告と今後の活動予定について
		運営会議 (11月11日)	①中小機構、JETROとの社会実装支援に係る協議について、②プラチナ構想ネットワークとの意見交換の概要について、③令和3年度「知」の集積と活用の中 評価委員会の実施について
		理事会 (1月26日)	①令和3年度の活動と研究開発プラットフォーム活動状況報告について(評価委員会への提出予定資料)、②令和4年度の活動計画(案)について
		理事会 (3月) (予定)	①令和3年度評価委員会の結果について、②令和3年度の活動計画について、 (メール開催を予定)
		研究開発プラットフォームヒアリング	令和3年6～7月に、商品化実績を持つ18の研究開発プラットフォームへのヒアリングを実施(うち、4は総会のトークセッションで代替)。また、その後も商品化を達成したものや、設立直後のものを中心に5の研究開発プラットフォームにヒアリング。
		会員アンケート	令和3年12月に会員を対象としたアンケートを実施。ホームページ・メールマガジン・主催イベントの満足度や要望を調査した。

「知」の集積と活用 の場 産学官連携協議会 事務局 によるレビュー				評価委員会の評価
項目	自己評価	評価に関する説明		
会員のニーズを捉えた運営活動がなされているか	A	<p>・<u>会員数は4,235</u>(令和4年2月4日時点)となり、昨年同時期と比べて378人増加。</p> <p>・5月の新事業創出会議におけるアンケートにおいて、今後取り上げて欲しい上位4テーマとして、①農林水産省施策、②商品化・事業化、③領域に沿った具体的研究内容、④プラットフォーム運営ノウハウ、があげられた。それぞれ、①みどりの食料システム戦略の説明(総会)や研究開発に係る令和4年度予算概算要求の紹介(第2回新事業創出会議)、②プラットフォームによる製品化事例の紹介(総会)やJETRO・中小機構等による支援メニューの紹介(ステップアップセミナー)、③ポスターセッションによる議論・交流、④運営モデルケースとなるプラットフォームの取組の紹介(第2回新事業創出会議)、のように<u>要望に対応してきており、各イベントについて高い評価を頂いているところ。</u></p> <p>・第2期基本方針のうち、「<u>海外市場への展開促進</u>」に向けて、在京大使館への周知活動を行い、<u>65の大使館が入会した</u>(令和4年2月4日時点)。在京大使館を通じて、国内会員と海外の企業・研究機関との交流イベントを行う中で、<u>海外からの入会希望が寄せられたこと</u>に対し、令和3年10月4日の臨時総会をもって<u>協議会規約等を改正し、海外会員の募集を開始した。</u></p>		
活動が研究開発プラットフォームの形成を促す効果を発揮しているか	B	<p>・第2期開始時にプラットフォームを整理して以降、9件のプラットフォームが設立、4件が解散している。プラットフォームの総数としては、第1期で続いた増加傾向が止まっている。一方、<u>各プラットフォームは参加会員数を昨年から平均14%伸ばしており、延べ3,755の会員がプラットフォームに参加している。</u></p> <p>・会員アンケートでは、登壇によって共同研究の打診や商談が生まれたとの回答もあり、<u>プラットフォームへの参加会員数の増加には協議会主催イベントによる寄与もあったかと推測される。</u></p> <p>・一方で、<u>個々のプラットフォームの活動が充実しているか</u>については、<u>評価の手法・基準がないこともあり、把握しきれていないとはいえない。</u></p>		
会員及びプラットフォームの連携を促進しているか	B	<p>・<u>新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、オンラインでも参加者同士の議論・交流ができるように、研究開発プラットフォームによるトークセッションを開催した。</u></p> <p>・唯一開催できた対面イベントであるポスターセッションの会場展示は、57件のポスターを前に108名の参加者同士が<u>積極的な交流</u>を行っていた。また、<u>同時開催のオンラインの研究発表会</u>では、10件の発表が行われ、参加者は218名と過去最大規模になった。ここでは、あえて質疑応答を行わずに、<u>ブレイクアウトルームによる発表者と参加者が直接意見交換する場を提供した。</u></p> <p>・上述のようなイベントで成果をアピールしたり、連携のための情報交換を行ったりする「場」を提供してきたが、<u>直接的なマッチングや連携の仲介の役割が果たせたとはいいがたい。</u></p>		
評価委員会の所見				

※評価については、A「十分」、B「普通」、C「不十分」とする。